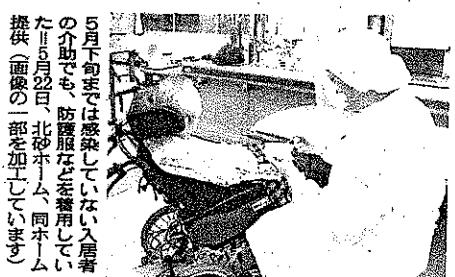


6/3 朝日

特養でクラスター 綱渡りの介護

新型コロナウイルスの集団感染が起きた特別養護老人ホーム「北砂ホーム」（東京都江東区）では、6月1日までに入居者・ショートステイ利用者44人、職員7人の計51人が感染し、入居者5人が亡くなった。最初の感染者が判明した4月22日以降、ホームでは感染防止策を取りながら、ぎりぎりの人手で入居者の介護を続けてきたという。（畠山敦子）



北砂ホーム（入居定員100人）を運営する社会福祉法人あそか会によると、一日時点では、5人がホーム内で療養、8人が入院している。ホーム内では感染者のいるエリートがいる。エリートは、入居者の介護を続ける。エリートは、入居者の介護を続ける。

職員31人自宅待機 応援得て防護服で

社会福祉法人あそか会理事長 古城資久さん

中傷と励まし ■ 無症状の人施設で ■ 行政の支援を検査速く

あそか会理事長の古城資久さんは（61）に、集団感染が起きてから状況や介護現場に必要な対策を聞いた。

— 今回取材に応じた理由は新たに25人の感染が判明し、報道された4月末ころ、中傷やいたずら電話が施設で鳴りやまなくなりました。「そんなことだから死人が出るんだ」と言わされたことも。クラスターが起きてしまったことは確かですが、職員は精神的にもつづけておりしていました。それでも不眠不休で働く現場に自信を保つてもらいたいと、感染時の状況を

アと感染していない人がいるエリートを分け、感染者に接する職員は

防護服にフェースシールド、医療用マスクN95をして介助があった。防護服などは食事休憩やトイレの都度着脱する。「防護服の着脱がかり、神経もつかう」（施設長）。入居者の食器と清拭用のタオルは、感染者以外も含めた全員を使い捨てる。

4月26日夜。その前に感染者が出たことを受けた入居者、職員全員が受けたPCR検査の結果、入居者と職員計25人の感染がわかつた。感染者、濃厚接触者の職員31人が2週間の自宅待機となり、入居者約80人にに対する勤務できる職員は6人しか残らなかった。

このため、あそか会の別の特養で働く職員ら計15人が応援に入りました。同法人や系列法人の病院の医療機関へ向かって、4月22日、北砂ホーム（同ホーム提供）（画像の一部を加えています）

公表することにしました。

ただ、全体では励ましの手紙や電話の方が多いこともあります。近くの小学校は懇意に「がんばろう 北砂ホーミュ」と貼ってくれたんですよ。

— 一部の感染者は施設で療養したのですね

入居者のうち、発熱などの症状がある感染者は全員が法人内の病院や系列病院に入院、症状がない感染者はホームで療養しました。系列の病院とやりとりができることや、ホームで感染者が増えた時期は保健所が一時的に施設で療養する対応にも追われていた

アと感染していない人がいるエリートを分け、感染者に接する職員は

整えた。ただ、それでも介護にかかる時間になると、一日時点では、5人がホーム内で療養、8人が入院している。エリートがいる。エリートは、入居者の介護を続ける。

アと感染していない人がいるエリートを分け、感染者に接する職員は

アと感染していない人がいるエリートを分け、感染者に接する職員は

アと感染していない人がいるエリートを分け、感染者に接する職員は